

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年11月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4270600531
法人名	営利法人（有）グループホームファミリーハウス
事業所名	グループホームファミリーハウス
所在地	長崎県五島市吉田町3100番地1 (電話) 0959-75-0458
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年11月26日

【情報提供票より】（平成20年10月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成15年4月1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	17 人
利用定員数計	18 人
常勤2人, 非常勤15人, 常勤換算	各7.29

（2）建物概要

建物構造	木造 造り
	階建ての ～ 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円 夕食 円 または1日当たり 900 円	昼食 円 おやつ 円	

（4）利用者の概要（11月26日現在）

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名
要介護3	2 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 85 歳	最低 73 歳	最高 95 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	聖マリア病院、久保循環器内科、大坪歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームと感じさせない、自然に囲まれた住居を思わせる作りである。ホームの窓から見える景色やホーム全体にも四季折々を感じさせる工夫の手作りの物が飾られている。ホームは掃除が行き届いて清潔感が感じられ、又リビングは明るく常に話し声や笑い声は暖かさが感じられる。職員は介護というより利用者に一般の生活を自然にさせてあげたい、という気持ちで接している。管理者始め職員全員が理念を理解し、利用者の立場にたった意識改革がされている。又事業主自ら地域の方へ積極的に働きかけ、地域とのつながりに貢献しようという意欲があり、職員にも伝わっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 前回の外部評価結果を踏まえて、職員全員で話し合い改善に取り組んでいる。改善点として、運営に関する家族等の意見を反映する仕組み作りを行う。面会記録簿を作成、職員の声かけなどによる体制作りがされている。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 管理者より自己評価に関する説明があり、職員間での話し合いや各自での確認がありその後管理者が作成している。職員は自己評価の意図を理解しており真剣に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議は2ヵ月に1回開催している。構成メンバーは五島市職員、老人会会長、有識者、家族、管理者、である。議事内容は事業所からの行事関係報告などで、地域交流会や中学校や保育園訪問、外部評価報告、その他質問、要望、助言、又救急指導講習会を行うなどして今後につながる取り組みがされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 面会に来られる回数が多いので、面会時に意見や要望が聞けるようにしている。面会記録簿を作成して家族が気軽に記入できるようにしている。又年1回のバーベキュー開催前に家族の方々に集ってもらい、利用者の日々の様子を説明したり、家族からの意見や質問を聞くようにして意見を反映させるための努力をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 町内会に入会しており、地区の体育祭や老人会、自治会に参加している。又中学生や保育園児のふれあい訪問による交流がある。年1度の敷地内でのバーベキュー大会では利用者、家族、地域住民、消防士、ボランティアの方々を招待して交流をしている。又事業主の思いからホーム前バス停をファミリーハウスとすることが実現し、地域との交流を図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念「その人らしくすごしてもらう」を基に前年度から地域密着という視点から感じたことを毎月のミーティングで話し合い見直しを行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はリビングの見やすいところにある。理念に基づいた介護についての話や気づきからくる理念の見直しなどがミーティングで話され、全員が理解し同じ方向の介護を目指している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは地域との交流に積極的である。地区運動会へ利用者の参加や老人会や地域ボランティアの訪問、保育園の発表会や中学生のボランティアなど頻繁に行われている。年に一度訪問者全員が集まってバーベキューも行われ交流が続いている。また周辺住民の散歩コースにもなっており、挨拶を交わしたり顔なじみである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果から即改善項目を作成し、職員と共に解決策を話し合っている。管理者は自己評価の項目を職員にわかりやすく説明し、各職員が記入を行い各ユニットで作成されている。		

グループホームファミリーハウス

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議は開催されている。参加者は市職員・老人会会長・福祉知識者・家族代表・職員である。各回の案内・議事録がわかりやすく保管されている。会議では行事の報告、職員研修内容の報告や献立についての意見をもらったりしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	五島市長寿介護課とは、様々な方法でお互いの情報交換を行っている。市職員より詳しく情報の説明を行ってもらったり運営がスムーズに行えるような関係作りを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月の請求書と共に活動表という便りを利用者別に作成している。写真数枚と担当職員からの日常の様子のコメントが記入されている。家族訪問時には理念の説明や暮らしぶり、金銭帳の確認と領収書を渡している。遠方の家族には電話で利用者の報告を行っている。職員異動はほとんどなく、異動があった場合も面会時や電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿に簡易アンケートと自由欄の作成や、多くの家族が集まるイベント時に話を聞く機会を設けている。又重要事項説明書にはホームの窓口と公的窓口をわかり易く記載している。ただしホームは家族からの要望を取り入れるための工夫を積極的に行っているが、なかなか意見が出にくい。	○	家族が要望を出しやすい環境をつくるために、面会簿とは別に無記名で記入できる方法を検討することを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表・管理者は馴染みの関係を大切にしており職員のシフトは各ユニットで行い混乱がないようにしている。また普段から各ユニットで交流を持っており顔見知りの関係を築いている。代表は職員の働きやすい環境を第一に、管理者は職員の介護指導や相談など積極的に行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組み を期待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開催予定表があり職員は参加したい研修があれば参加できるし、研修内容は月の会議で報告し資料はファイリングして管理しており、職員の情報共有の体制が作られている。新人研修は各個人の介護レベルにあった指導を随時対応している。全職員は五島市連絡協議会の講演や講座を受講している。毎月のミーティングで管理者が勉強会を開催している。職員は各々自分の専門分野を広げる意欲がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は五島市連絡協議会の講座に参加している。また年に5件ほど他のグループホームと施設体験・見学をお互いに行い意見交換を職員ができる機会がある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族と本人と自宅や病院で直接話を行い、状態や生活歴などの資料を作成している。職員へはコミュニケーションのキーワード等の情報を共有している。入居後は利用者同士の仲間作りを中心に会話を大切にしたい見守りを行っている。利用者の表情や言葉遣いが落ち着くまで家族とも密に情報交換を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者が落ち込んでいるとき、原因を探しながら共に気晴らしをしたり泣いたりし、利用者が落ち着くまで寄り添っている。職員は利用者との会話の中に励まされることが多く、利用者が一般の生活がおくれるように支える介護関係を築いている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組み を期待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との会話から、本人本意の過ごし方を把握しミーティングで職員全員で共有している。職員は利用者の性格もふまえ、利用者が発しようとする表情を見落とさず、会話が困難な場合は選択肢を準備しうなずきや顔の表情などから汲み取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員が利用者本位の介護計画という意識があり、利用者が自分らしく暮らせるよう、日々の様子や会話などから記録している。月1度の「サービス担当者会議」で情報交換などして話し合いケアプランを作成している。その後3ヵ月に1回、月末会議で今後の対応を話している。家族には面会時に説明し確認印をもらっている。職員全員で見直しを行うことにより、利用者の生活がより良くなるよう努めている		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、月1度のユニット毎の会議や管理者間で話し合いを行っている。職員が項目毎に担当を持ち、経過、結果、今後の対応を検討して情報交換ノートを作成、又病院受診後は業務日誌とは別に個人別に記録する。変化があった場合は、家族主治医スタッフを交え話し合い、アセスメントを行い期間に関係なく新たに計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や利用者からの要望で墓参りや法事は、家族の送り迎えで、又要望によっては連れて行く。車椅子の方や場所によっては階段がある場合は一緒に行って手伝う。以前行っていた散髪屋や友達の家、病院や買い物などに職員と一緒に出かけるなどの支援をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組み を期待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医はそのまま持続でき、かかりつけ医がない場合は家族と相談のうえ、ホームの協力医療機関にて対応、又定期的に受診して医師の指示を仰いでいる。通院は当番職員が連れて行き、帰宅後は個人記録にすべて記載している。緊急時の場合は夜でも往診してもらえる対応があり、安心した医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、一応入居時に説明をしている。家族や利用者の希望を尊重し、医療処行は行っていない。しかし今後の対策としては利用者が安心して終末期を迎えられるように、家族をはじめ医師の協力のもとで意思疎通が図れる体制作りに取り組んでいる。	○	終末期に対する考え方を家族を含め職員全員で検討するとともに書類作成が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護遵守については、入居時に家族に説明し、個人情報の取り扱いの同意書を得ている。薬や書類などは鍵がかかる所に保管している。又言葉かけなどは、利用者を尊厳して傷つけないよう配慮している。又職員には守秘義務に関する誓約書を取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まってはいるが、利用者の体調やその日の気分に合わせて、自然体で過ごせるようにしている。又職員が作業の途中でも、利用者の希望があれば希望に沿うことを最優先として支援している。		

グループホームファミリーハウス

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組み を期待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	”今日は何を食いたい”と利用者に関心・献立を決め、冷蔵庫にない物は利用者と一緒に行き買いに出かけて作る。料理を作る時は魚のさばきかたを教えてもらいながら、又料理の得意な方は味付けから盛り付けまで楽しみながら行っている。流動食の方の場合は、職員が使われている食材を見せ、食事を美味しく楽しめるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回で、各ユニットで曜日が重ならない配慮がされ希望があればいつでも一日中入浴できる。入浴は強制せずに体調をみたり、声かけをしたり、入浴できない場合は足浴や全身清拭を行い対応している。又トイレの横にシャワー室を設けるなどして支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や家族との話し合いなどから、各々の得意なことやできることを把握して、洗濯物たたみや買い物、料理の手伝いなどで張り合いをもってもらおうと同時に労をねぎらう言葉をかけている。たまの気晴らしとして温泉やドライブ、散歩、ゲームセンターに出かけたりして支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出かけたりドライブに行くこともある。車に乗れない方は車イスを押しながら15～20分位かけて買い物に連れていくなど、戸外に出る支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が心を開ける環境とスタッフ体制があり、鍵をかけない環境作りがされている。利用者の出たい気持ちへ配慮して、何をするにしても見守りは常日頃徹底している。付添介助を徹底するなどして、自然体で自由な暮らしができるようにしている。		

グループホームファミリーハウス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、地域の消防団とともに避難訓練を実施し、避難経路の確認や消火器の使いかたの指導も行っている。夜間想定を踏まえての実施を年2回している。急変時に備え地域の消防署と連携を図り、2年に1回救命心拍蘇生の講習を受講している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の好みを把握して記録している。食事量は日計表に記録するようにしており、毎食の摂取量がわかるようにして栄養のバランスにこころがけている。水分量は毎食時のお茶、おやつ時、入浴後のポカリなど、又その時の体調などに合わせた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	戸を開けるとバリアフリーで段差のないホームの中は広々としたリビングで、側には畳にこたつといった家庭の雰囲気を感ぜさせる工夫をしている。ホームの外や中は職員全員で季節感の演出が手作りされている。部屋の明かりやテレビなどの音も気にならないように家にいるのと変わらない自然体で暮らせる配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使いなれた物があり、家族の写真や小物、ぬいぐるみ、日用品などが置かれ居心地良く過ごせる配慮がされている。各部屋から外の景色が見える大きい窓や、家族との懇談、宿泊などでもできる広さ、又部屋の中の片づけがしやすいよう押し入れを広くするなど工夫している。		

※  は、重点項目。